視　察　研　修　報　告　書

氏　名（政策研究会皐）

視察日時	令和５年８月２１日（月）１３時３０分～１７時４５分　現地視察・座学 令和５年８月２２日（火）１０時００分～１６時３０分　現地視察
視 察 先	【視察①】　佐世保市相浦地区、高島地区
視察内容	持続可能なまちづくりについて
内　　容	１、　佐世保市の現状と相浦地区のまちづくりの現状について ２、　相浦未来まちパートナーズと土地改良区プロジェクトについて ３、　高島活性化コンベンション協会 ESPO 離島活性(高島)プロジェクトについて。
所感（感想）	相浦未来まちパートナーズ、高島活性化コンベンション協会とも、地元大学「県立長崎大学」の学生も参加するなど、多様な立場の方が参画され、参加者全員が主役となり「持続可能なまちづくり」に向けた取り組みが行われていた。 具体的には、ＳＷＯＴ分析を行い、強み、弱み、機会、脅威、話し合ってみたいことを探り出し、土地改良後も農地が活用されてない問題を解決するために、農地転用による官民連携・多機能まちづくりを掲げ、自ら将来ビジョンの策定し、佐世保市への提言が行われていた。このように市民が問題意識を共有し、取り組む姿勢が大切であると感じました。 佐世保市の中でも人口減少が激しい離島の高島地区では、高島活性化コンベンション協会ＥＳＰＯを立ち上げ、「数十年後も明るい未来の共有ができる元気な友人島として存続させる」をコンセプトに、歴史の尊重と未来への柔軟な発想の融和による革新的な離党活性に取り組まれていた。 具体的には、ありのままの地域の資源を活かした一次産業の向上と六次産業の活性化策として「ＨＡＣＣＰ対応水産加工工場」を開設し、昨年度は新たに工場の一部に「Ａ－Ｓｈｏｐ」という商店を復活させ地域課題解決に取り組まれていた。さらに、島に残る「おもてなし文化」を活かした新たな観光産業の創出に取り組まれていました。 また、これらの取り組みを中心となって進めているのは、高山市在住で高島生まれの父親を持つ方であり、郷土愛の醸成が大切であると感じました。
主な質疑	・高島を支援しようとしたきっかけについて ・地域住民の意思統一について ・下呂の知名度の確認
課題・提言事項	・持続可能なまちづくりに向け、市民参画の手法を確立すること。 ・下呂市にゆかりのある方をつなぐ「下呂ファンクラブ」を設立し、継続的な関係づくりのため、地域の情報を定期的に発信したり、優先的にイベント情報等を届けるなど、市と地域外の人の関わりを新しく生み出すこと。

視　察　研　修　報　告　書

氏　名（政策研究会皐）

視察日時	令和５年８月２３日（水）９時００分～１２時００分
視 察 先	【視察②】　長崎市平和公園及び長崎原爆資料館
視察内容	地域の成り立ちの歴史と平和について
内　　容	１、　平和公園見学 ２、　長崎原爆資料館見学
所感（感想）	長崎は歴史的に見ると、鎖国政策を取っていた江戸時代にあっても、国内で唯一の玄関口である出島があったこと、および戦国時代から続くキリスト教信仰の影響などにより、異国情緒に溢れた、独特の雰囲気が感じられる町であった。町の中心部に位置する長崎平和公園と原爆資料館を見学し、当時の凄惨な状況を写真やビデオ等で確認した。中でも、護岸工事で発見され、そのままの状態で保存された被爆当時の地層や、無残にコンクリート基礎だけが残った当時の刑務所施設跡などからは、生々しく原爆の威力の凄まじさが伝わってきた。観光客が楽しそうに散策を楽しむ今の街並みからは想像することは難しいが、70有余年前にこの地で原子爆弾が爆発したことは、紛れもない事実であり、今を生きる私たちには、その事実をしっかりと受け止め、理解し、そこから学び得たことを次世代に受け継いでいく責任があると感じるとともに、長崎市民はこの公園施設を通して、そのことの継承がしっかりとされていることを実感した。 下呂市においても今後まちづくりを進めるにあたり、地域の歴史・文化等を学び、理解し、地域全体でそのプロセスを共有するところから始めることが重要であると感じた。
主な質疑	特になし
課題・提言事項	・E-DMOを確実なものとするため、地域の成り立ちの歴史、伝統文化の情報を地域住民全体が理解し共有する仕組みを構築すること。 ・誰もが願う平和をしっかりと考えていただけるよう、下呂平和の塔を活用すること。